

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 2
主査名	高田邦道 ・ 日本大学 名誉教授
研究テーマ	自動二輪車の交通事故分析とその活用
研究の目的: <p>本研究は、自動二輪車の交通事故を分析し、その結果からこれまで実施されてきた自動二輪車関連の交通管理手法と平成 24～26 年度の研究で提案してきた自動二輪車のバスレーン走行に関する手法について吟味し、より説得性の高い安全な自動二輪車の走行空間確保と道路・交通管理技術の方法論を提案することを研究目的とする。</p> <p>自動二輪車は、わが国の主要な産業で、世界をリードしてきた。自動車と変わらない交通機能を持ち、そのうえ燃費もよく環境対応型ののりものであり、自動車に比べて走行空間面積も小さく渋滞緩和に貢献していることは言うまでもない。しかし、近年超小型車や電動アシスト自転車の出現、あるいは自転車奨励の政策によって、自動二輪車はその地位が脅かされると同時に、道路・交通管理技術の制約も自動二輪車の中の車種により異なり、加えてわれわれの研究成果による提案も「安全性」の確認がないことで反故にされてきた。プライバシーの問題や裁判の問題を理由に、交通事故データは、外部者が自由に取扱えないので、本来は外部からの交通管理手法などの提案に対し、当局が交通事故解析をし、その採択を考えるべきものと考えられるが、致命的な問題が発生しないかぎり、提案は先送りされてきているのが現状である。このたびは、十分とはいえないまでも交通事故分析の見通しが立ったので、本プロジェクトを立ち上げた次第である。なお、本研究は、一般社団法人自動車工業会二輪車部会からの要請により、研究計画を立てたものである。</p>	
研究の経過(4月～9月): <p>鎌ヶ谷市における原動機付自転車・普通自動二輪車・大型自動二輪車別の交通事故発生地点分析、自動二輪車事故に関する傾向分析<7月>、鎌ヶ谷市における原動機付自転車・普通自動二輪車・大型自動二輪車別の交差点・単路部別、道路種別、道路幅員別、土地利用別、学校区別などによる分析、自動二輪車事故に関する要因分析、について議論し、下記の課題に示す内容の検討の必要性を取りまとめたところである。</p>	
下期へ向けて(課題等): <ol style="list-style-type: none">① サンプル的ではあるが、バスレーン設置路線と非設置路線とで事故発生状況の比較② 自動二輪車の安全性追求の歴史的変遷③ 自動二輪車の交通事故分析結果を踏まえた自動二輪車の道路・交通管理技術手法の提案 の検討と事故分析のさらなる詳細な分析を予定している。	
研究メンバー(敬称略): <p>高田邦道(主査・日本大学名誉教授) 秋山尚夫(元警視庁) 荒牧英城(元国土交通省) 福田敦(日本大学) 中村文彦(横浜国立大学) 小早川悟(日本大学) 西田泰(交通事故総合分析センター) 関根太郎(日本大学) 稲垣具志(日本大学) 西原相五(TR プランニング代表取締役)</p> <p><オブザーバー> 日本自動車工業会二輪車企画部会メンバー 南部繁樹(トラフィックプラス)←鎌ヶ谷市のデータ分析</p>	